



船員の生活をサポートする情報誌

船員ほけん



平成30年3月1日発行(隔月1回1日発行)

○地域の復興と活性化へ向けて 国立宮古海上技術短期大学校	2
○全国健康保険協会 船員保険部からの大切なお知らせ	6
●第33回 灯台物語	5
●第9回 新ぐるり海道歴史散歩	10
●潮風通信	13
●健康広場	14
●「もっとお魚を食べよう」	16
●巡回健診スケジュール ほか	19



国立宮古海上技術短期大学校 カッターサークル

地域の復興と活性化へ向けて

国立宮古海上技術短期大学校



岩手県沿岸部の中央に位置する宮古港は、外海から遮蔽された天然の良港として知られ、沖合に豊かな漁場をもつ漁業基地として古くから栄えた。

国立宮古海上技術短期大学校は、優秀な船員の養成を目的に海員養成所としてこの地に開校、現在は、一般商船の航海士・機関士を養成する国内3校目の短期大学校として、これからの我が国の海運を支える人材育成を担っている。

校長からのご挨拶

国立宮古海上技術短期大学校

校長 森 真



本校は、昭和15年に、宮古海員養成所としてスタートし、その後、時代の要請を受けて、昭和27年に国立宮古海員学校、平成13年に国立宮古海上技術学校と教育制度を変え、最終的に平成20年4月、国立宮古海上技術短期大学校となり現在に至っています。これまでに約4700人もの卒業生を輩出しており、平成31年に創立80周年を迎えます。

本校は、貨物船やフェリー、タンカーなどの航海士や機関士、即ち「海のプロフェッショナル」である船乗りを育成する学校です。四面を海に囲まれた「日本」において、船舶による貨物輸送は必要不可欠なものです。更に近年は「大気汚染」や「省エネ」の観点から、「陸上輸送」に代わる手段として「海運」の果たす役割が重要視

され、これらを支える人材育成の場としての本校に対する期待も高まっているところです。ここ数年、本校の応募者倍率は2倍を超え、「船員になりたい」という高い目的意識を持った学生が多数集まっています。そのような学生が入学することによって、更に高い目標が生まれ、ここ数年は卒業時「海上就職率100%」「海技試験合格率100%」を達成しています。

ご存知のとおり、宮古市は、平成23年3月11日、東日本大震災により、甚大な被害を受け、本校も同様に全滅的な被害を受けました。その後、地元自治体を始め関係各位のご協力により、本校関係箇所は約1年で原状に復帰しております。宮古市は、まだ復興の途次ではありませんが、今年6月の「宮古～室蘭」間のフェリー就航を機に今後急ピッチに復興事業も加速されるものと期待しています。

本校は「港町宮古」にしっかり根付いた海上技術短期大学校として、本校の校訓である「誠実」「健康」「規律」「勤労」「協調」の5つを実践できる人格を備えた若い優秀な船員を育て、今後も海運業界へ輩出して行きたいと考えています。

航海・機関の総合教育

船を安全にかつ確実に目的地まで運航し、船の貨物の積み降ろしを監督する「航海士」。船を動かすメインエンジンや発電機・ボイラー・冷凍機などの機械を保守・管理する「機関士」。

同校は、貨物船やフェリー、タンカーなどの航海士や機関士、即ち「海のプロフェッショナル」を育成する。このため学生は、在学する2年間で国家資格取得に向けた専門知識（航海・海事法規・海洋気象・船用機関・電気電子工学・情報技術等）を習得、そのカリキュラムは、主に船舶運航に関するアウトラインを学ぶ「座学」と、実際に経験しそれを蓄積する「実習」で構成される。

また、将来の船内生活においては、秩序ある団体行動が重んじられることから、同校は学生寮を校内に置き、寮生活を通じて船員としての資質を育むこととしており、学生らは、楽しい中にも規律ある集団生活を行っている。



大型練習船による乗船実習

1年間の座学を終え2年生になると、同校の母体である独立行政法人海技教育機構（JMETS）所有の大型練習船による本格的な乗船実習が始まる。これは、同校のカリキュラムの集大成ともいえる実習であり、4月～6月、7月～9月、10月～12月の3ヶ月単位で帆船、汽船とタイプの違う船舶を乗継ぎ、日本各地の様々な港を巡る。



5隻の練習船はたいへん美しく、船員教育に最適な環境や機器を備え、実際の航海を通じて操船や機関操作、チームワークなどを学ぶ。さらに、各寄港地での観光や食事も乗船実習の楽しみの一つとなっている。

海技教育機構の練習船



船名	汽船 大成丸
所属	海技教育機構
竣工年月日	2014年3月31日
総トン数	3,990トン
全長×幅×深さ	91×15.5×9(m)
機関	ディーゼル1基 4079馬力
定員(実習生定員)	176名(120名)



船名	帆船 日本丸
所属	海技教育機構
竣工年月日	1984年9月12日
総トン数	2,570トン
全長×幅×深さ	110×13.8×10.7(m)
機関	ディーゼル2基 3000馬力
定員(実習生定員)	190名(120名)



船名	汽船 銀河丸
所属	海技教育機構
竣工年月日	2004年6月15日
総トン数	6,185トン
全長×幅×深さ	116×18×10.5(m)
機関	ディーゼル1基 8,980馬力
定員(実習生定員)	246名(180名)



船名	帆船 海王丸
所属	海技教育財団
竣工年月日	1989年9月12日
総トン数	2,556トン
全長×幅×深さ	110×13.8×10.7(m)
機関	ディーゼル2基 3000馬力
定員(実習生定員)	199名(108名)



船名	汽船 青雲丸
所属	海技教育機構
竣工年月日	1997年9月25日
総トン数	5,890トン
全長×幅×深さ	116×17.9×10.8(m)
機関	ディーゼル1基 10,500馬力
定員(実習生定員)	252名(180名)

東日本大震災の被害

7年前の東日本大震災では、海岸にあった艇庫が破壊され、庫内の練習艇やカッター、備品等がすべて流されるなど甚大な被害を受けた。4月の入学式が間近に迫っていたため、急遽、姉妹校である静岡県^の国立清水海上技術短期大学校（以下「清水校」）で入学式が行われた。

また、練習艇を使った実習等の授業も不可能であったため、学生らはそのまま3ヶ月間清水校の寮に入り、授業を受けることになった。教員も清水校に出向いたが、4月～12月の期間、清水校の2年生は航海訓練で洋上にいたため、寮・教室とも使用することができ、この時期を乗り越えることができた。

同校は間もなく原状復帰できたものの、宮古全体が未だ復興途中であるため、同校は復興イベント等に積極的に参加し、早期復興に向けた様々な協力を行っている。

客船「ぱしふいっくびいなす」洋上歓迎事業への協力

平成29年6月21日、日本クルーズ客船株式会社運航の「ぱしふいっくびいなす」（26,518トン）が宮古港に入港した。

大勢の市民による出迎えで歓迎ムードを盛り上げ、クルーズ船寄港地としての魅力を高め、賑わいの創出や観光振興に繋がりたいと、宮古市から入港歓迎行事への協力要請があった。



同校は、これに応じて船上実習を計画、練習船、カッターのほかすべての船と学生を動員し、海への憧憬を育み、港まち「宮古」を再認識するとともに、大人と一緒に地域のための活動を行う経験により、今後の地域学習につなげること、また、海の仕事や港湾についての理解を深めることとして寄港を歓迎した。

さらに、歓迎行事の一環として、宮古市立津軽石小学校児童26人を練習船「月山」に招待し、海からの歓迎体験乗船会を開催した。会場では、宮古市の職員が、寄港による町の活性化、船による物流の重要性、また2018年春に開設する宮古～室蘭のフェリー航路等について説明があり、同校からは、海運の重要性と船が果たす役割等について説明、船を動かす船員になるための学校が身近にあること、将来の入学を歓迎することを伝えた。

子供たちにとって、海や船、海運を知る良い機会となり、同校の紹介を含めたいへん有意義なイベントとなった。

第25回宮古港カッターレース大会への参加

宮古市は、「海にひろがる夢・みらい」をテーマに海の町宮古のPRと活性化を図り、参加チーム間の交流を深め、水産並びにスポーツの振興と理解を高めることによって、復興を兼ねた明るく豊かなふるさとづくりの一翼を担うことを目的として、宮古港カッターレ



ス大会を開催している。3年前からさらに大会の充実が図られ、県外からのチームを招いての宮古市長杯が組まれたことが人気を呼び、今では参加30チームの夏の宮古を代表する盛大なイベントとなっている。

同校の森校長は、自ら大会副委員長や審判長を務め大会を盛り上げている。平成29年7月16日開催された第25回大会では、同校男子チームが、強豪の東京海洋大学を本校歴代新記録で破り優勝し、同じく女子チームは4位と健闘した。また同大会では、小樽から3年連続で参加した同校の姉妹校「国立小樽海上技術学校」に対し、市長から「宮古の復興に寄与した」として功労賞が贈られた。

国立宮古海上技術短期大学校は、将来を担う船員の育成に取り組みながら、ご紹介した内容以外にも、様々な形で宮古の復興と活性化に協力されている。

海の街『宮古』の、一日も早い完全復興が待たれるところである。